

壁

ドイツをつらぬく国境



開催場所：関西大学千里山キャンパス 簡文館 1階 年史編纂室・展示室

開催期間：平成23年12月5日(月)から12月8日(木)まで ※入館無料

開館時間：午前10時から午後5時まで

主 催：関西大学

共 催：大阪日独協会

現代の歴史展

BUNDESSTIFTUNG
AUFARBEITUNG 

Bild

DIE  WELT

壁

ドイツをつらぬく国境

2011年8月13日は、ベルリンの壁が築かれてから50年という節目の日である。そこで、「社会主義統一党による独裁体制を検証するための連邦基金」と大手日刊紙であるBild（ビルト）紙、およびDie Welt（ディ・ヴェルト）紙は、これを機にひとつの歴史展を企画、開催する。同展では、20点の展示パネルが、ベルリンの壁とドイツ国内に引かれた国境の歴史を紹介する。両新聞社の保管資料から展示される写真や文書は、見る人の心に強い印象を残す。その中には、数十年間も資料庫に眠っており、今回やっとまた人目に触れるというものもある。Die Welt紙のスヴェン・フェリックス・ケラーホフ(Sven Felix Kellerhoff)と、Bild紙のラルフ・ゲオルグ・ロイト(Dr. Ralf Georg Reuth)という二人の文筆家が、1952年以来ドイツの国土を分断した隔壁や、壁建設のドラマティックな背景を、そして西側大国のそれに対する反応を描き出す。また、ドイツ社会主義統一党(SED)のとった分断体制とその犠牲者、逃亡者とそれを手助けした人たち、壁近辺の地域住民やベルリン市民の日常、そして1989年の平和革命に伴う分断の克服などもテーマとなっている。展示の最終部分では、「ベルリンの壁裁判」をもとにドイツによる壁の司法的検証と、現代における壁の記憶が取り上げられる。

展示内容 (タイトル)

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 壁ードイツをつらぬく国境 | 11 銃撃命令ー傷を負う者、命を落とす者 |
| 2 占領地域ー鉄のカーテン | 12 小ベルリンーテューリンゲンのメドラロイト村 |
| 3 封鎖ー空からの救援 | 13 脱出ー絶望的な勇気をふるって |
| 4 階級闘争ー民衆を圧する政治 | 14 人身取引ー政治犯の解放 |
| 5 西へー東独からの脱出 | 15 常態化ー規定された二国併存 |
| 6 壁の建設ー1961年8月13日 | 16 壁の日常ー境界線の影の中で |
| 7 現実政治ー連合国の対応 | 17 革命ーわれわれこそが国民だ！ |
| 8 絶望ー苦難、そして自由の渴望 | 18 壁の崩壊ー1989年11月9日 |
| 9 全面撤去ー遮るものがない射界 | 19 検証ー刑事裁判と追憶 |
| 10 国境政策ー地雷と「スターリンの芝生」 | 20 記憶ー独裁は二度と許さない！ |



■ACCESS

阪急千里線「関大前」駅下車 徒歩10分

※お車でのご来場はご遠慮ください。

簡文館は博物館を目印にお越しください。

年史編纂室・展示室は博物館1階です。